

想定見直さずの再稼働は新たな安全神話

議員 井上哲士
参院 予算委

井上哲士参院議員は10日の参院予算委員会で質問に立ち、大飯原発の地震想定も見直さず、活断層の調査も後回しにしたまま、再稼働に突き進む政府の道理のなさを浮き彫りにしました。

政府が東日本大震災をうけて大飯原発で想定される最大のゆれ(基準地震動)を見直す必要がないとしていることにたいし、井



上議員がただすと、平野文科大臣は、日本海側の海底活断

層の調査に来年度から取り組むと答弁。気象庁長官は、柏崎刈羽原発に大きな被害をもたらした2007年の中越沖地震クラスの地震が、日本とその周辺で年間平均19回、昨年は116回発生していることや日本で大きな地震が絶対ないといえる場所はないと述べました。

井上氏は大飯原発3、4号機などほとんどの原発は、中越沖地震規模の揺れが起きれば炉心溶融にいたる限界点を超えると迫りました。

これにたいし枝野経産相は、「大飯原発と柏崎刈羽原発は地下構造

が違う」と強弁しました。

井上氏が活断層の調査も来年からなのに、なぜ活断層が無いといえるのかとたがすと、野田総理は「今のレベルでは知恵を尽くした」と言い訳しました。

井上氏は、「想定を抜本的に見直さず、再稼働に突き進むのは新たな『安全神話』だ。再稼働を中止し、掘削調査を行え」と主張しました。

質問後、井上室には「日本で地震の起きない安全なところはないことがはっきりした」「再稼働反対。がんばってください」などのメールや電話が寄せられました。

定数削減法案に批判続出

衆院倫選特委
佐々木議員



10日の衆院倫理・選挙特別委員会の理事会では、民主党が6月26日に比例定数75削減などを柱とする法案の委員会付託を強行したこと、野党側から批判が続出し、日程協議に入れませんでした。

佐々木憲昭衆院議員は「選挙制度は民主主義の土台であり、各党合意で進めるのが当然だ。与党だけで強行するなど到底認められない。元に戻すのが筋だ」と批判しました。

民主党側は「過去にも賛成多数で決めたことがある」などと主張しましたが、佐々木氏は「議運ではすべての野党が反対するなか、与党だけの賛成で付託を強行した」と反論。民主党側も「議運の状況について事実誤認があった」と認めました。

自民党は「審議の前に強行したことをどうするのか、はっきりしていたいただきたい」、公明党は「民主

党の幹部が6日に採決だとか9日に採決など、勝手なことを言っ

ている」、社民党も「多数決で強行したことは許せない」と述べました。

愛知・岡崎4か所でどうい 河江候補

河江明美衆院比例東海ブロック候補は8日、総選挙と10月の市議選を前に、愛知県岡崎市市内で4カ所のつどいに参加しました。

鈴木まさ子市議宅で開かれた南部地域のつどいには、近所の人たち10人が参加。河江候補は、



自らも参加した首相官邸前の原発再稼働反対の抗議行動の様子も、国会で

は消費税増税反対、原発ゼロの勢力は少数ですが、全国の抗議行動は大きく広がっています。増税反対、原発ノーの声を広げましょう」と訴えました。

参加者から「3年前の総選挙で民主党に期待して投票した。民主党の公約違反を見ていると、次の総選挙では何を信じてよいのかわからない」「消費税増税法案に賛成した議員が、地元では反対のことを言っている」という声とともに「共産党が頑張っているのはわかっているが、議席が少ない。どうすれば増税をストップできるのか」などの意見もだされ、河江候補がていねいに答えました。